
特異な形態を呈した異所性膵の一例

○北村遼一 柿木崇秀 豊田甲子男 一ノ橋紘平 佐藤千明
金村仁 岡本佳子 亀井宏治 松島由美 立田浩

(大阪府済生会茨木病院 消化器内科)

症例：34才男性

主訴：心窩部痛、食思不振、嘔吐

現病歴：1週間前から持続する心窩部痛の精査加療目的で紹介。

検査所見：血中アミラーゼ 418 U/l 膵アミラーゼ 386 U/l と上昇。

上部消化管内視鏡検査：前庭部に全周性の粘膜下隆起を認めた。

腹部CT：膵に膵炎の所見はなく、十二指腸球部から胃前庭部に浮腫性肥厚を認めた。

超音波内視鏡：前庭部胃粘膜下に hypoechoic area を認めた。観察のため蒸留水を注入したところ、幽門輪直下より黄白色粘液の流出を認めた。同流出部からガストログラフィンを注入すると胃粘膜下前庭部周囲に嚢胞内腔が冠状に造影された。粘液には高濃度のアミラーゼが認められ、細胞診では腺上皮細胞を認めた。胃粘膜下嚢胞の圧排による通過障害と考え、腹腔鏡補助下に幽門側胃切除術を施行した。

切除標本：胃漿膜側大弯に沿って 4cm x 3.3cm の腫瘤性病変を認めた。

病理組織所見：粘膜下の腫瘤は膵管を含む正常膵組織を備えた異所性膵であり、嚢胞には膵管上皮が認められた。異所性膵の膵管末端の閉塞により膵管が嚢胞状に拡張し、十二指腸球部に穿通したものと考えた。病理組織標本上悪性所見は認めなかった。

今回我々は胃前庭部に認められた特異な形態を呈する異所性膵 cystic dystrophy の症例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。
